

#### 4 最高約10コマ/秒の高速連続撮影



EOS Kiss M2は、最高約10コマ/秒（ワンショットAF時）の連続撮影が可能。動きの速い被写体など、決定的なシャッターチャンスを逃したくないときには非常に心強い。あとからベストショットを選ぶことができる。

##### Data

モード マニュアル露出  
レンズ名 EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STM  
焦点距離 24mm 絞り F4  
シャッター 1/2000秒 ISO 640  
WB 太陽光

#### 5 瞳AFで人物をとらえる



瞳の検出機能がアップし、人物が遠くにいってもスピーディーにピントを合わせることが可能。一度、瞳にピントを合わせたら、被写体が動いても追従してピントを合わせ続け、横向きになっても追尾する。また、動画撮影時（動画サーボAF）にも瞳AFが対応する。

##### Data

モード マニュアル露出  
レンズ名 EF-M32mm F1.4 STM  
焦点距離 32mm 絞り F2  
シャッター 1/4000秒 ISO 200 WB 日陰

#### 6 タップで瞬時に被写体を選択



複数の被写体を撮るときに、ファインダーをのぞいたまま、タッチパネルをタップ操作し、追尾して撮りたい人を瞬時に切り換えることができる。リアルタイムで顔/瞳を検出し、被写体が増えても素早くAFフレームを移動させ、ピントを合わせることができる。

##### Data

モード マニュアル露出  
レンズ名 EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STM  
焦点距離 32mm 絞り F5  
シャッター 1/1250秒 ISO 640  
WB 太陽光

Section 08 EOS Kiss M2の撮影モードを知ろう

Keyword 撮影モード

Kiss M2には、初心者向けから上級者向けまでの多彩な撮影モードが搭載されている。撮影モードは、カメラ上部にあるモードダイヤルで切り替えることができる。ここでは、各モードの特徴を解説する。

▶ EOS Kiss M2の9種類の撮影モード

Kiss M2には、9種類の撮影モードがある。カメラが撮影シーンや被写体に合わせて自動で設定を行ってくれる初心者向けのモードや、自分で絞り数値やシャッター速度を設定するモード、写真に効果を加えるモード、動画モードなどがある。まずは、各モードの特徴を知って、使い分けよう。

撮影モード



[撮影モードの設定方法]

モードダイヤルを回して、撮影モードを設定する。

[シーンインテリジェントオート]



カメラが自動で目の前のシーンを判断して最適な設定にしてくれる(▶P.24)。

[プラスムービーオート]



写真を撮るためにシャッターボタンを押し切ると、その直前までを動画で記録してくれるモード(▶P.111)。

[スペシャルシーン]



12種類のモードから選べ、カメラがそのモードに合わせて自動調整する。明るさやアスペクト比なども選べる(▶P.34)。

[動画撮影]



動画を撮影できる。オートかマニュアルの2種類のモードが選択可能(▶P.108)。

[シャッター優先AE]



シャッター速度を自分で設定できるモード(▶P.74)。

[クリエイティブフィルター]



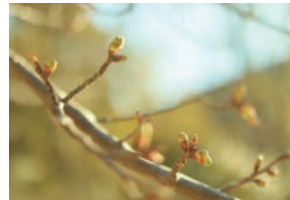
印象的に仕上げるための10種類のフィルターが選択できる。撮ったあとで「油彩風」+「ジオラマ風」など、複数のフィルターをかけることもできる(▶P.172)。

[プログラムAE]



カメラが絞り数値とシャッター速度を自動調整して写真が撮れる(▶P.72)。

[絞り優先AE]



絞り数値を自分で設定できるモード(▶P.76)。

[マニュアル露出]



シャッター速度と絞り数値、ISO感度をすべて自分で設定できるモード(▶P.78)。

Point

◎Kiss M2には、9種類のさまざまな撮影モードが搭載されており、各モードの特徴を踏まえた上で選択する。

# シャッター優先AE(Tv)で撮影しよう

Keyword シャッター優先AE ▶ 高速シャッター ▶ 低速シャッター

シャッター速度を自分で決めてコントロールするモードが、シャッター優先AE。どのくらいの速さでとらえると、その被写体が魅力的に見えるのかを見極めて設定することが重要となる。

## シャッター優先AEで撮る

シャッター優先AE(Tvモード)とは、**シャッター速度を自分で決めると、絞り数値をカメラが設定してくれる**モード。動きのある被写体を止めて見せたいのか、流して見せたいのかを判断してシャッター速度を設定する。1/2000秒など、シャッター速度が速ければ、動きを止められる。15秒など、シャッター速度が遅ければ、動いているものはぶれて(流れて)写ることになる。

[ 1/1600秒 ]



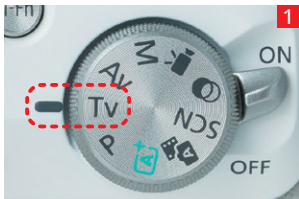
水をりんごにかけて、その跳ね上がる一瞬の形をとらえる。1/1600秒だと、飛沫が玉や波のように写る。

[ 1/30秒 ]



1/30秒だと、飛沫も注いでいる水も動きが流れていて形を留めない。水の流れを表現できる。

[ シャッター優先AEの設定方法 ]



モードダイヤルを[Tv]に合わせる。



電子ダイヤルを回して、シャッター速度を設定する。シャッター速度は電子ダイヤルを右に回すと速く、左に回すと遅くなる。絞り数値は、シャッター速度に合わせて自動で設定される。

## 高速シャッターで一瞬を写し止める

自分が動いているときや被写体が動いているときに被写体の形をとらえる場合、シャッターは高速にして、被写体をしっかり止めてぶらさずに写すことが重要だ。ぶれてしまうと、動いている様子は表現できても形はわかりづらくなってしまいます。被写体の何を表現したいのかを考えて、最適なシャッター速度を割り出そう。



時間が止まったような子どもの姿を1/800秒で写し止めた。シャッター速度が遅ければ躍動感は表現できるが、細部がぶれて考えている表現とは変わってしまう。

Data	
モード	シャッター優先AE
レンズ名	EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STM
焦点距離	15mm
絞り	F4.5
シャッター	1/800秒
ISO	800
WB	くもり 露出補正 +1 2/3

## 低速シャッターで動感を表現する

被写体の動感や臨場感を表現したい場合には、低速シャッターに設定するとよい。静止画なのにまるで動画のひとコマのような躍動感のある描写となる。ただし、しっかりと計算して被写体に合うようなシャッター速度で撮らないと、失敗写真のようにも見えるので注意が必要だ。



車の後部座席から隣を走る車を撮影。背景にピントを合わせ、シャッター速度を1/30秒に設定し、被写体の車をぶらすことで超高速の車が通り過ぎていくようなイメージに。

Data	
モード	シャッター優先AE
レンズ名	EF-M11-22mm F4-5.6 IS STM
焦点距離	11mm
絞り	F16
シャッター	1/30秒
ISO	100
WB	オート

## Point

- ◎シャッター優先AEは、自分でシャッター速度を設定して撮影するモード。
- ◎被写体の動きを止めるには、高速シャッターでとらえる。
- ◎被写体の動感を表現するには、低速シャッターを使う。

# オートライティング オプティマイザを活用しよう

Keyword オートライティングオプティマイザ

オートライティングオプティマイザは、明るさやコントラストを自動で補正してくれる機能だ。Kiss M2では、従来機に比べてこの機能が進化している。より美しい明るさの写真に挑戦してみよう。

## オートライティングオプティマイザとは

**オートライティングオプティマイザ**とは、撮影しても暗いときや、コントラストが低かったり高かったりする場合に、明るさやコントラストを自動的に補正してくれる機能だ。白トビを抑えてくれるほか、明るいシーンでの階調を美しく表現してくれる。効果は、「弱め」「標準」「強め」から選択できる。

### オートライティングオプティマイザの設定方法



モードダイヤルを[P] [Tv] [Av]のどれかに合わせる。動画モードでも設定できる。



Ⓜを押して、クイック設定画面にする。



オートライティングオプティマイザのアイコンを選ぶ。



効果の強弱を選択して、Ⓜを押す。

※マニュアル露出でも、INFOを押して[マニュアル露出時はOFF]を解除すると、設定できる。

## オートライティングオプティマイザで明るく撮る

オートライティングオプティマイザは、**明るさやコントラストを自動で調整**してくれる機能。白トビや黒つぶれを軽減できるような階調の幅を広げてディテールなどの消失を防いでくれる。明るさは大きく変わらないので、カメラ操作になれていない人におすすめだ。



[OFF]

強い逆光での物撮り。ピントは瓶に合わせているので、露出は瓶に合い、暗部が暗く落ちている。



[弱め]

「弱め」に設定。影の部分はやや明るくなったが、白とんではいる部分はまだ少し残っている。



[標準]

「標準」に設定。「弱め」のときよりもシャドウ部分のディテールが出て、白トビの部分に色がのっている。



[強め]

「強め」に設定。全体的に明るくなり、暗部も白トビ部分もきちんと描写できるので立体感が出てきた。

### Point

◎オートライティングオプティマイザは、明るさとコントラストを自動で補正してくれる機能。

Section 07 4K動画を撮影しよう

Keyword 4K動画▶デジタルズーム▶ハイフレームレート動画▶プラスムービーオート

Kiss M2は、フルハイビジョンの約4倍の解像度で記録される、極めて高精細な4K動画を撮ることができる。写真だけでなく、動画にもさまざまな機能があるので、動画撮影もぜひ楽しんでみよう。

動画を撮影する

Kiss M2では、**ハイビジョン**、**フルハイビジョン**、**4K**などの美しい動画を簡単に撮影することができる。まずは、動画の撮影方法を解説する。

[動画の撮影方法]

1 モードダイヤルを $\text{M}$ に合わせる。

2  $\text{M}$ を押して、「動画自動露出」または「動画マニュアル露出」から動画撮影時のモードを選択する。

3 シャッターボタン横の動画撮影ボタンを押すと、動画撮影がスタートする。

4 動画撮影がスタートすると、右上に赤いマークが点灯する。撮影を終了するには、再度、動画撮影ボタンを押す。

[動画撮影モードの画面]

1 撮影モード	2 AF方式
3 動画セルフタイマー	4 動画記録サイズ
5 デジタルズーム	6 動画電子IS
7 ホワイトバランス	8 ピクチャースタイル
9 オートライティングオブティマイザ	
10 ジオラマ風動画	

デジタルズームで動画を撮影する

**デジタルズーム**とは、**被写体を約3～10倍にズームして撮影**できる機能だ。遠くの被写体を引き寄せて大きく写して撮影することができる。ただし、手ブレしやすくなるので、三脚を使用しよう。

[デジタルズームの設定方法]

1  $\text{M}$ を押して、「デジタルズーム」のアイコンを選択する。

2 「約3～10倍」を選択する。

3  $\text{M}$ を押すと、画面の右側にデジタルズームバーが表示される。

4  $\blacktriangle$ を押すと望遠側に、 $\blacktriangledown$ を押すと広角側にズームできる。

縦位置情報を付加する

**縦位置情報を付加**することで、カメラを縦向きにして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに縦方向で再生されるように設定できる。SNSなどで投稿する際、編集ソフトで方向を変換する必要がないのでとても便利だ。

[縦位置情報の設定方法]

1 メニューの[1]タブから「縦位置情報の付加」を選択して、 $\text{M}$ を押す。

2 「する」を選択して、 $\text{M}$ を押す。

Section  
**08** 単焦点レンズを  
使おう

Keyword 単焦点レンズ

単焦点レンズはズーム機能がないので、被写体との距離は、近づいたり離れたりして自分で決める。また、ズームレンズに比べてコンパクトで、明るいレンズが多く、暗い場所でも使いやすい。

単焦点レンズについて知る

**単焦点レンズ**は、焦点距離が固定されているレンズだ。開放F値が小さいため、きれいなボケをつくることができ、感度が上がるのも防げる。また、被写体との距離は自分で調整するので、被写体との関係性を把握することにも役立つ。Kiss M2のキットレンズの**EF-M22mm F2 STM**は、厚さがわずか23.7mmの薄型パンケーキレンズ。開放**F2**と明るいので、光量の少ない暗い場所でシャッター速度を必要とする場合などに重宝する。

Lens Data



**EF-M22mm F2 STM**  
(Kiss M2のキットレンズ)  
焦点距離 22mm  
(35mm判換算:35mm相当)  
開放絞り値 F2  
フィルター径 43mm  
レンズ構成枚数 6群7枚  
最短撮影距離 0.15m

Lens Data



**EF-M32mm F1.4 STM**  
焦点距離 32mm  
(35mm判換算:51mm相当)  
開放絞り値 F1.4  
フィルター径 43mm  
レンズ構成枚数 8群14枚  
最短撮影距離 0.23m



手のひらのシーグラス。背景の砂浜のボケも絞り数値を開放にしているため、美しく輝いている。EF-M22mm F2 STMは、逆光の描写もしっかりしているレンズなので、透明感ややわらかさを演出できる。

Data

モード 絞り優先AE  
焦点距離 22mm  
絞り F2  
シャッター 1/4000秒  
ISO 200  
WB オート  
露出補正 +1 1/3

単焦点レンズの特性を生かして撮る

**EF-M32mm F1.4 STM**はスナップに最適な明るい単焦点レンズ。235gと軽めで、32mm(35mm判換算:51mm)のややタイトな画角は、余計なものが入りにくく使いやすい。最短焦点距離が0.23mと短いので、寄り引きの機動力も持ち合わせる。気軽なスナップからポートレート、本格的な作品撮りまで活用できる。単焦点の魅力が詰まった万能なレンズだ。



お店の中や部屋などを説明的ではなく、心象的に表現したいときに、ほどよい画角と明るさを備えている。シンプルで柔らかな描写力はEF-MレンズNo1と言える。

Data

モード 絞り優先AE  
焦点距離 32mm  
絞り F1.4  
シャッター 1/1250秒  
ISO 200  
WB オート  
露出補正 +1/3



甘夏の断面。最短焦点距離0.23mまで寄って、大きく瑞々しく描写できた。レンズ交換をしなくてもここまで寄れるのはうれしい。

Data

モード マニュアル露出  
焦点距離 32mm  
絞り F1.4  
シャッター 1/2500秒  
ISO 320  
WB オート

Point

- ◎焦点距離が固定されている単焦点レンズは、自分が動いて被写体との距離を調整する。
- ◎開放F値が小さく明るいので、暗い場所での撮影に強い。

# Section 01 室内でポートレートを撮影しよう

Keyword 順光▶サイド光▶逆光▶ISO感度▶ピクチャースタイル「モノクロ」

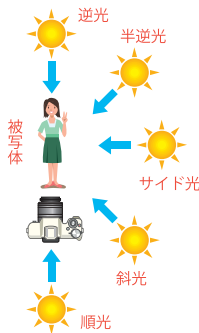
室内で人物を撮影するときは、特に雰囲気づくりが重要な鍵となる。そのためには、順光や逆光などの光を駆使してイメージを描き、自分ならではのポートレート写真を追求してみよう。

## 光を活用して撮る

昼間の室内では窓からの光がポイントとなる。窓に向かい合うと顔は**順光**となるので、質感はパキッと引き締まった感じになる。影が強く落ちるので、日の高い時間の上からの光には注意が必要だ。それに比べて**サイド光**や**逆光**は、やわらかい質感を残しつつ、影もニュアンスになるので撮りやすい。撮りたいポートレートに理想的な外光の入る場所を見つけよう。

光には、被写体に対する角度によって、名前がついている。光の種類を覚えておくと、撮影時に便利だ。

### 【光の種類】



### 【順光】



正面から光が当たり、元気な雰囲気の写真になっている。斜光ならば上からの光と違い、顔に落ちる影もあまり気にならない。

### 【サイド光】



左側から顔に光が当たり、右側の頬にやや影が落ちている。サイド光は立体感が出やすいので、広く好まれる。

### 【逆光】



逆光は太陽を背負っている状態なので、顔に光は当たっていないが、その分、拡散した光によって、やわらかい雰囲気となる。

## ISO感度を上げて撮る

室内の撮影は見た目以上に暗いことも多い。装飾の多いカフェやアパートの一室など、その部屋の雰囲気を生かす場合は、間接照明だけでの撮影となることもある。そのときは**ISO感度を上げて、シャッター速度を確保しながら撮影**しよう。室内ではISO2500～6400までを基準とし、明るさを調整するといだろう。



間接照明だけのカフェ。振り返ったかわいらしさを撮りたかったのでISO感度は3200に。シャッター速度は1/320秒を確保し、髪に動きを出すことができた。

Data	
モード	絞り優先AE
レンズ名	EF-M32mm F1.4 STM
焦点距離	32mm
絞り	F1.4
シャッター	1/320秒
ISO	3200
WB	オート 露出補正 +2/3

## モノクロやセピアで撮る

光と影のバランスが面白いシチュエーションでは思い切ってピクチャースタイルを「**モノクロ**」にするのもよい。周りに人が多く写り込んだり、太陽光と照明光のミックス光で色味が思うようにならなかったりするときにも有効的だ。なお、「モノクロ」の詳細設定には、調色として「セピア」や「青」「紫」「緑」のバリエーションもあるので試してみよう。



【モノクロ】  
ごちゃごちゃした内装の部屋だったので、人物を引き立たせるため「モノクロ」に設定し、レトロな雰囲気。

### 【セピア】



「セピア」はモノクロよりも暗部の締まりがやわらかい。被写体を丁寧に浮かび上らせた優しい雰囲気になる。

Data	
モード	絞り優先AE
レンズ名	EF-M32mm F1.4 STM
焦点距離	32mm
絞り	F1.4
シャッター	1/250秒
ISO	3200
WB	オート 露出補正 +2/3

## Point

- ◎室内のポートレートでは、窓からの光をうまく利用して撮影する。
- ◎ISO感度を上げたり、ピクチャースタイルを活用して雰囲気をつくって撮る。

Section  
**03** 風景を  
印象的に撮ろう

Keyword 構図 ▶ 高輝度側・階調優先 ▶ シルエット

海、山、街などの風景には、地形や歴史などの特徴がある。それらを踏まえて、強調する部分や抑える部分を意識して切り撮るのがポイント。そして、自分がどう感じたのかを大切に撮影に挑もう。

構図を意識して切り撮る

街の風景を切り撮るとき、奥行きを考えてポイントとなる被写体を入れ込むと、ぐっとその街の特徴が現れる。また、光の向きを考慮して、どの被写体に比重を置いて魅力を伝えるのかなど、**構図を意識して**撮れば、その場所を表すような印象的な写真を撮ることができる。



左の商店の椅子に比重や目線の誘導を持っていき、右に抜ける奥行きをつくることで、構図のバランスをとった。

**Data**  
 モード 絞り優先AE  
 レンズ名 EF-M32mm F1.4 STM  
 焦点距離 32mm 絞り F1.4 シャッター 1/800秒  
 ISO 200 WB オート 露出補正 +1 1/3

高輝度側・階調優先で白トビを抑える

強い光や被写体とのコントラストがある場合、白トビをしてしまうことがある。白くとんでしまうと、そこには情報がないのでRAWから現像をしても色が出ない。そこで、それを少しでも防ぐために、**高輝度側・階調優先** (▶P.102)を設定して、階調をより豊かにして表現してみよう。

[OFF]



高台から海と街を写した。強い夕陽で海の色が白くとんでしまった。しかし、露出を暗くすると街が暗くなり、ニュアンスが変わってしまう。

[ON]



ここで、高輝度側・階調優先を「強」の「D+2」に設定して撮影。白くとんだ部分に色が戻ってきた。

**Data**  
 モード 絞り優先AE  
 レンズ名 EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM  
 焦点距離 142mm 絞り F16 シャッター 1/200秒  
 ISO 200 WB オート 露出補正 +2/3

逆光を利用してシルエットで写す

逆光を利用して、**シルエットに**することで、より印象的な写真となる。夕陽の光が強いとき、背景に露出を合わせてディテールを出せば、手前の被写体は黒く沈んでシルエットのみとなる。ただ、標準露出ではシルエットにならないときがあるので、アンダー気味の露出に設定する。また、ISO感度を高くすると、全体的に明るくなってしまうので、なるべく低く設定するとよいだろう。



かなり明るかったので、ISO感度は200に、シャッター速度を1/500秒と速くして調整。背景の海以外をほどよいシルエットにすることで、余分な情報が消え、夕刻の美しさが際立った。

**Data**  
 モード マニュアル露出  
 レンズ名 EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM  
 焦点距離 55mm 絞り F6.3  
 シャッター 1/500秒 ISO 200  
 WB 太陽光

Point

- ◎風景撮影では、構図を意識してポイントとなる被写体を入れ込むとよい。
- ◎高輝度側・階調優先で白トビを抑え、逆光を利用してシルエットで表現する。



Section  
**12** 夜景と人物を  
霧困気よく撮ろう

Keyword 夜景ポートレートモード ▶ 露出補正 ▶ スローシンクロ

街中や遊園地など、夜景と人物を撮る機会は多い。ただ、日中と違い、顔が明るく撮れなかったり、ぶれたり、ともにきれいに撮るのは難しい。そんなときのテクニックを紹介する。

▶ 夜景ポートレートモードで撮る

夜景で一番大変なのは、シャッター速度を常に意識しないとならないことだ。だが、スペシャルシーンモードの**夜景ポートレート** (▶ P.37) に設定すれば、カメラが自動に設定し、夜景と人物両方を明るくとてもきれいに撮ることができる。ストロボを発光させることで、さらに人物が浮き上がる。



背景のカラフルな光をきちんと写しつつ、人物の存在感もはっきりと写る。自動でシャッター速度が設定されるので手持ちでは難しい場合は、三脚の使用をおすすめする。

Data	
モード	スペシャルシーン (夜景ポートレート)
レンズ名	EF-M32mm F1.4 STM
焦点距離	32mm 絞り F2.8
シャッター	1/20秒 ISO 800
WB	オート

▶ 露出補正できれいに撮る

夜景も人物も両方入れて手持ちで撮るという場合、はじめに夜景の明るさをおおよそ決めてから、**人物の顔の明るさを露出補正**すると失敗しづらい。絞ったほうが夜景は美しい場合もあるが、人物がいることを考えると、絞りは開けて夜景をぼかしつつ、シャッター速度は1/30秒を切らないほうがブレは少ない。

[補正なし]



普通に撮ると、背景は美しいが顔が暗くなってしまった。

[補正あり]



+1に露出補正。夜景の空気感とともに人物の顔を美しく切り撮ることができた。

Data	
モード	絞り優先AE
レンズ名	EF-M32mm F1.4 STM
焦点距離	32mm
絞り	F1.4
シャッター	1/60秒
ISO	4000
露出補正	+1

▶ スローシンクロで撮る

**スローシンクロ**は異次元のような描写ができるテクニックだ。シャッター速度を遅く設定して、車などの光跡を背景に入れ、ストロボ発光することで、肉眼で見ているものとは違うスピード感のある写真が撮れる。シャッター速度はマニュアルやバルブで自分の好みで決め、ストロボ光は調光補正しつつ顔に当てるとよい。



交差点で、車の残像とテールランプの光跡とともにとらえた。より夜の街のスピード感や、風を感じさせる写真となった。なお、スローシンクロの場合は、三脚の使用をおすすめする。

Data	
モード	マニュアル露出
レンズ名	EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STM STM
焦点距離	22mm
絞り	F6.3
シャッター	0.5秒
ISO	640
WB	日陰

Point

- ◎ 夜景と人物をともにきれいに撮るには、夜景ポートレートモードを使う。
- ◎ スローシンクロを使うと、より幻想的な写真に仕上げることができる。

# 効果をつけて撮影した 写真をSNSにアップしよう

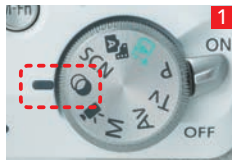
Keyword クリエイティブフィルター ▶ image.canon ▶ YouTubeライブ配信

クリエイティブフィルターは、画像にさまざまな効果や加工を加えることができる機能だ。ユニークなフィルター効果もあるので、シーンに適したフィルターを選んで、写真をもっと楽しんでみよう。

## クリエイティブフィルターについて知る

Kiss M2には**10種類のクリエイティブフィルター**が搭載されていて、撮影時と撮影後に画像にさまざまな効果を加えることができる。スマートフォンと簡単にWi-Fi接続できるので、SNSなどにアップする際に、クリエイティブフィルターでより自分好みに加工した写真に仕上げるといいだろう。

### [クリエイティブフィルターの設定方法]



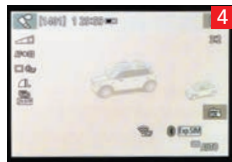
モードダイヤルをONに合わせる。



Ⓜを押すと、クリエイティブフィルターを選択する画面になる。



▲/▼で、効果をつけたいクリエイティブフィルター(ここでは「水彩風」)を選び、Ⓜを押す。



クリエイティブフィルター「水彩風」の画面になる。



Ⓜを押して、クイック設定画面から、クリエイティブフィルターの下のアイコンを選び、▲/▼でフィルター効果の度合いを調整する。

## クリエイティブフィルターで効果を加える

クリエイティブフィルターは、写真の見せたい部分を強調する**フィルター効果**がつけられる機能だ。自分のイメージを膨らませながらこのモードを活用することで、より写真の楽しさとバリエーションが広がるだろう。なお、「HDR絵画調標準」「HDRグラフィック調」「HDR油彩調」「HDRビンテージ調」は撮影後には効果をつけられないので撮影時に設定しよう。以下の作例を参考にして、挑戦してみよう。

### [ラフモノクロ]



ざらついたモノクロの表現ができる。強いコントラストの場面に合う効果だ。弱め、標準、強めから選ぶことができる。

### [ソフトフォーカス]



紗がかかったように、ふわっとやさしく表現したい場面に合う効果。弱め、標準、強めから選ぶことができる。

### [魚眼風]



魚眼レンズで撮ったように画面の中心部が浮き出て、曲線に丸く歪む効果をつける。弱め、標準、強めから選ぶことができる。

### [水彩風]



まるで水彩絵の具で描いたようなやわらかい効果をつける。淡い、標準、濃いから選ぶことができる。